

沖縄の地域資源の活用・沖縄生まれのおすすめ商品

伝統工芸品を  
普段使いする商品を開発

# 琉球テーブル コーディネイト

活用した地域資源

和牛、リュウキュウマツ、琉球漆器、壺屋焼  
琉球ガラス、琉球紅型、首里織、八重山ミンサー

事業概要

琉球工房 RYUKYU CRAFTは伝統工芸品の概念をとっぱらい、普段つかえるものを伝統工芸品でプロデュース。テーブル廻りを基本として現代のライフスタイルに採り入れられる「琉球テーブルコーディネイト」を提案。



合同会社琉球工房 Ryukyu Craft  
代表 比嘉美穂さん

生産者インタビュー

今回伝統工芸品を使い  
開発した商品を教えてください。

箸、箸ケース、箸カバー、箸置き、皿、テーブルマット等基本的にテーブルまわりですね。これが全て沖縄の伝統工芸品の技術で制作されています。

何故、伝統工芸技術で  
作ったものなのですか？

伝統工芸品の技術は非常に良いもので、この技術を活かしたものを普段の生活に取り入れられないものだろうか？というところからはじまりました。実際工芸品使用度が少ないと思えます。価格もそれなりのものですし、少し敷居が高い気もします。せっかく受け継がれてきた工芸品も、一品物はなかなか手が届かないし、デザイン的にも普段には取り入れづらいと感じる人も多く、使用頻度も限られるのではないのでしょうか。今のライフスタイルでは、益々使用頻度も少なくなり衰退していきます。琉球工房 RYUKYU CRAFTは現在のライフスタイルに合わせ、若い人でも購入し易い価格帯で普段使いできる、工芸品の技術が活かされた商



箸と箸ケース

商品開発のきっかけは  
なんだったのですか？

元々飲食店を経営していたのですが、店舗で使う器を探すけれど、なかなか見つからなくて、それなら自分で開こうと、昨年、新都心にオープンしたのがセレクトショップ「うつわ屋 jam ジャム」でした。それから販売業として商品にこだわった結果が自社ブランド開発までなりました。

商品開発のコンセプトは  
なんなのですか？

そうですね、いつも頭にあるのは、いいものを普段の生活に取り入れられるようにすること、豊かな暮らしを提案したいということですね。毎日使うものだからこそ、形や機能性はもちろん、なるべく小さなお子さんからお年寄りまで、幅広い世代に安心して使ってもらえるよう、素材や塗料にも気を配った物をお勧めしたいと思っています。また手作りの良さに

顧客の視点に立った提案とこだわりを工芸品の技術によって形にする行動力は、沖縄の伝統工芸の救世主かもしれない

触れることで、エゴを考えるきっかけになればうれしいと思います。

何故、  
伝統工芸技術で  
作ったもの  
なのですか？

スタートがテーブルまわりということ、将来的には生活スタイル全般を、工芸品の技術で開発した商品でプロデュースしたいと思っています。



皮製品

合同会社琉球工房 Ryukyu Craft  
〒900-0005 沖縄県那覇市天久2-5-18  
TEL 098-869-4390 FAX 098-869-4390  
http://jam-company.ocn.net